

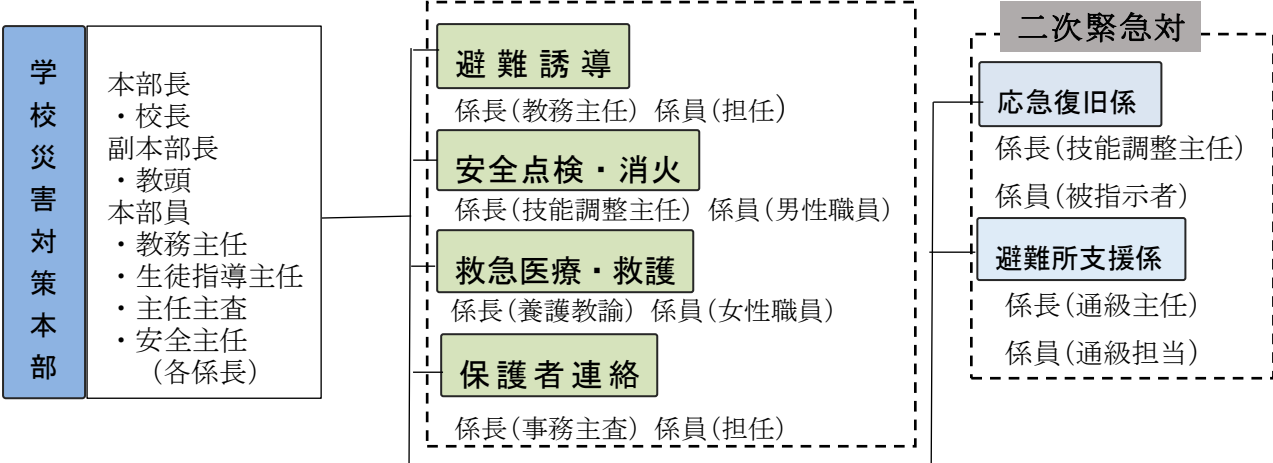
浜田小学校防災マニュアルダイジェスト版



学校と学区の現状

(1)	校舎	建築年：平成 1 5 年 1 1 月
	体育館	建築年：平成 1 7 年 5 月
		いずれも倒壊等の危険性は低い。ただし、校舎周りは地盤沈下の影響で段差やうねりが大きくなってきている。校舎のつなぎ目、体育館の照明器具やバスケットゴール等は破損や落下の可能性がある。
(2)	校地	海拔 2.3m。庄内砂丘の端にあたる。津波の要避難地域（バッファゾーン）であり、校地東側にある新井田川が津波遡上で氾濫する可能性がある。校舎は津波避難ビルに指定されている。液状化による地割れや噴水・噴砂、校舎と地面との段差発生の可能性がある。土砂災害等の危険はない。最上川氾濫の場合、3～5m 浸水し、3 日以上浸水が続くと想定されている。
(3)	学区	市内中心部に位置し、市役所・酒田駅・商店街を中心とした市街地と、新興住宅や市営アパート群の住宅街を学区としている。児童の徒歩通学時間は 3 0 分圏内である。
(4)	地形	学校は低地砂丘の上だが海には面していない。しかし、新井田川沿いに津波が遡上することも想定される。
(5)	ハザード	酒田市、山形県等のハザードマップ（地震、土砂災害、洪水、火山）、災害の歴史、近年の経験等により、想定すべきハザードは以下のとおり。
	①地震・津波	庄内平野東縁断層帯の地震時、予想震度は 6 強。学区の震度は市内でも強い。日本海で発生地震の場合は津波が新井田川を遡り氾濫の可能性があるため、新井田川沿いは要避難地域（バッファゾーン）に指定されている。
	②液状化	液状化の危険性は高い。 （地震時に校舎と地面の段差、地割れ、噴水・噴砂の可能性がある。）
	③土砂災害	学区の大部分は土砂災害の危険性はない。
	④洪水	最上川および新井田川の洪水ハザードマップでは、新井田川沿いと酒田駅周辺およびその北東側一帯は浸水が想定されている。最上川氾濫の場合は、3～5m の深さになるとされ、浜田小から北側一帯は浸水が 3 日以上続くと想定されている。浜田小の校舎は、洪水時緊急避難場所に指定されている。2018 年 8 月、2024 年 7 月豪雨の際は、学校周辺が浸水し、本校への出入りが困難な状況になった。
	⑤地吹雪	市街地のため建造物で防がれている。
(6)	その他	昭和 5 1 年の酒田大火では多くの学区民が被災した。そのためグラウンドに仮設住宅が建造された。
	校外	学年行事等で行く場所で、特に想定すべきハザードは以下のとおり。
	①津波	飛島いきいき体験学習（5 年自然体験学習）
(7)	②その他	クマ等出没…鳥海山（4 年、よつば学級自然教室）、平田地区（3 年自然教室）
	避難場所・避難所	・避難場所（災害時に市民が自発的に避難する場所）：本校校舎・グラウンド収容 1760/3327 人 ・避難所（住居を失った者等を収容する避難施設）本校体育館 収容 388 人 ・津波避難ビル（中町庁舎）洪水時緊急避難場所（海晏寺）
	自主防災組織等	本校を市避難所として使用する場合の組織・役員は次のとおり。
(8)		自主防災組織（浜田学区コミュニティー振興会長）

学校災害対策本部と業務内容



係 名	業 務 内 容	主な必要物品
本 部	○校内放送等による連絡や指示 ○応急（緊急）対応の決定 ○各係との連絡調整 ○教育委員会、酒田市災害対策本部、PTA等との連絡調整・報告 ○情報収集（気象、災害、交通情報等） ○非常持出品の搬出 ○報道機関との連絡・対応	拡声器、メガホン ホイッスル 無線機（トランシーバー） ラジオ 懐中電灯 乾電池（各種） 引き渡し確認名簿 在校児童生徒名簿
避難誘導係	○安全な避難経路を確認しての避難誘導 ○安否確認（負傷状況の把握）と本部への報告 ○安否確認できない児童生徒の搜索	拡声器、メガホン ホイッスル 強力ライト
安全点検・消火係	○火災が発生した場合の初期消火 ○被害状況の確認 ○校舎、その他施設の被害程度の調査と本部への報告 ○初期消火の必要がない場合は、避難誘導、救護等の他係を支援。	消火器 防煙マスク 安全点検表
救急医療係	○緊急医薬品、担架の持ち出し（AED含む） ○負傷者の応急手当 ○救護所の設営（保健室が使えない状況を想定） ○医療機関への搬送・連絡	医薬品 担架・AED 毛布 簡易テント、シート
救護係	○負傷者の救出、救命 ○負傷者、危険箇所等の通報 ○「心のケア」の実施	担架 毛布 バール、スコップ等
保護者連絡係	○連絡メール配信、電話での対応 ○防災無線、地域コミュニティを活用しての連絡 ○引き渡し対応の事前の取り決め ○引き渡し場所の指定 ○児童生徒の引き渡し作業（カード利用）	引き渡しカード
応急復旧係	○被害状況の把握 ○ライフライン被害状況の把握と本部への報告 ○危険箇所の応急処置 ○「立入禁止」「使用禁止」等の表示	トラロープ 各種表示 各種工具
避難所支援係	○酒田市災害対策本部と連携しての支援 ○避難所開設がない場合は、避難誘導、救護等の他係を支援する。	放送機材、カラーコーン、各種表示、腕章、ベスト

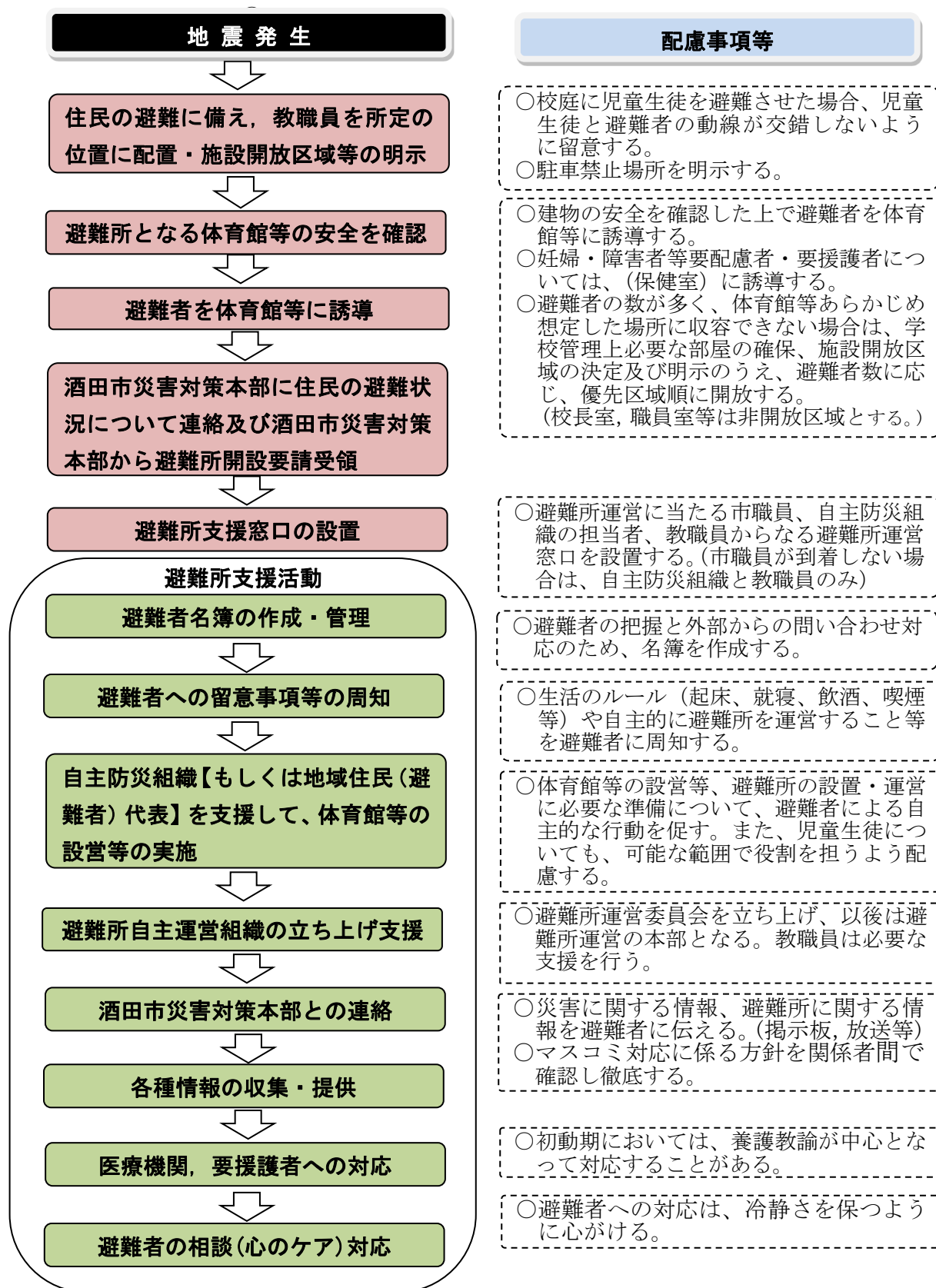
学校グラウンド以外の避難場所

第1避難場所 学校体育館	第2避難場所 学校校舎2階	第3避難場所 海晏寺・中町庁舎
--------------	---------------	-----------------

学校が避難所となる際の対応

学校の避難所設置・運営にかかる協力（発災初期段階の例）

※学校に教職員等がいる時間帯において大地震が発生し、市からの避難所開設要請の前に住民が避難してきた場合を想定



あわてずに行動！ 地震 こんな時どうする？

学校にいるとき

1 自分の身を守る

- まわりをよく見て、「**落ちてこない・倒れてこない・移動してこない**」場所で揺れがおさまるのを待ちます。
- 机やテーブルの下にもぐり、脚をつかみ、揺れがおさまるのを待ちます。
- 体育館など広い場所にいたら、中央付近にしゃがんで、揺れがおさまるのを待ちます。

2 避難する

- 放送や先生の指示にしたがって避難します。落ちている物や倒れている物に気をつけ、「**お・は・し・も**」の約束を守って避難します。
- 指示があるまで、その場で落ち着いて待ちます。

登下校中のとき

1 自分の身を守る

- まわりをよく見て、「**落ちてこない・倒れてこない・移動してこない**」場所で揺れがおさまるのを待ちます。
- 建物（かわら）、ブロックべい、門柱、自動販売機からはなれ、安全な場所に避難します。
- かばんやバッグなどで頭をかくし、しゃがんで揺れがおさまるのを待ちます。

2 避難する

- 近くに大人がいるときは、大人の人に助けを求めて一緒に行動します。
- 学校が近いときは学校へ、家が近いときは家へ避難します。
- 車には、十分気をつけながら移動します。

家やほかの場所にいるとき

1 自分の身を守る

- 食器や本棚、蛍光灯などが「**落ちてこない・倒れてこない・移動してこない**」場所で揺れがおさまるのを待ちます。
- 机やテーブルなど頭をかくせる物の下にもぐり、脚をつかみ、揺れがおさまるのを待ちます。
- あわてて火を消しに行ったり、外には飛び出したりしません。
- 揺れがおさまったら窓を開けます。

2 避難する

- うちの人といっしょに避難所へ避難します。建物（かわら）、ブロックべい、門柱、車などに気をつけて移動します。
- 家の人がいないときは、近所の人といっしょに避難します。

学校の対応について

- 酒田市が震度4以下の場合、原則として通常通りの日課です。状況によっては、休校や一斉下校とする場合があります。
- 酒田市が震度5弱以上の場合は全員を学校に待機させます。保護者の皆さんも、自身の安全確保を第一に行動、危険な状況を回避してください。安全が確認できましたら、お子さんを迎えに来てください。
- 休校、登校時間を遅らせる、下校時間を早める場合は、連絡メール等でお知らせします。連絡がなくとも、危険な状況と判断した場合は自宅で待機させてください。

他にもいろいろ... 災害 備えあれば憂いなし

